

「笑い」に関する音声象徴語の 日韓の対照研究

朴 智娟

要旨

本研究は、「笑い」で表す感情や会話機能を音声象徴語に焦点を置き、日韓の両言語を対照する。音声象徴語は感情表現に欠かせない重要な役割を果たす語彙群である。日本語と韓国語は音声象徴語の数が世界のどの言語より豊富であるとされている。本研究は、韓国語の感情表現に関する音声象徴語の中で語彙数において上位を占めている「笑い」に関するものを検討し、それらを通して日本人と韓国人における「笑い」が持つ感情や会話機能について考察する。

キーワード

音声象徴語 笑い 感情表現 会話機能

1 はじめに

本研究は、「笑い」で表す感情や会話機能を音声象徴語に焦点を置き、日韓の両言語を対照することを目的とする。音声象徴語は、感情表現に欠かせない密接な関係を持つ語彙群である。日本語と韓国語はこのような音声象徴語の数が世界のどの言語より豊富であるとされている。本研究は、韓国語の感情表現に関する音声象徴語の中で語彙数において上位を占めている「笑い」に関するものを検討し、それらを通して日本人と韓国人における「笑い」が持つ感情や会話機能について考察する。

2 研究背景

2.1 音声象徴語の定義

音声象徴語は、音を声で模倣したり、音感を利用したりして、象徴的に事象を描写した語彙群である。音は人間の声を含め、動物の鳴き声などの自然界、物の響きなどの人工的なものまであらゆる音を指す。声は人間が発音器官を使って出す音のことで、音感はある音を聞いたとき、その音に対して連想される主観的なイメージである。

「笑い」は、日韓の両辞書¹の定義を要約すると「内部の肯定的、否定的な感情を主に顔の表情や声などで外部に表す行為である」とされているが、これらを踏まえて

¹ 『広辞苑 第六版』(2008) 岩波書店 (CD-ROM版) 岩波書店
『標準国語大辞典』(2008) 国立国語院 (<http://www.korean.go.kr/>)

「笑い」に関する音声象徴語は、「笑う」という行為を表すもので、笑い声や笑う様子の描写を通して主体の肯定的、否定的な感情を表したりする語彙群である。

音声象徴語の分類方法は、様々だが、本研究で研究対象となっている「笑い」を表す音声象徴語は大きく笑い声を表すものと笑う様子を表すものに分類できる。

2.2 先行研究から見た「笑い」に関する音声象徴語の分類

日韓の「笑い」に関する音声象徴語の先行研究は、金 (2005)、李 (1986)、박 (Bag) (2000)、윤 (Yun)(2005) などが挙げられる。先行研究では、語彙の収集や分類を行う際に辞書の標題語として掲載されたもののみ、あるいはデータに出現したもののみというようになっている。辞書のみ扱う場合は、実際の発話場面で見られる様々な変形型の収集が不可能になるおそれがある。データのみ扱う場合は、子音や母音、音節の交替、反復、挿入などによって生ずる意味や微妙なニュアンスの差を把握することがやや困難になる。このような問題を解決すべく本研究では、語彙の収集や分類を行う際に辞書とデータでのものを補い、「笑い」に関する音声象徴語を意味論的な観点を中心に検討する。但し、必要に応じて形態論的な観点からの検討も行う。

2.3 研究対象

本研究では、日本語と韓国語の辞書に表題語として掲載されている語彙群を基準として研究対象の選定をする。参照とする辞書は次のようである。

日本語『広辞苑 第六版』 (2008) 岩波書店 (CD-ROM版)

韓国語『標準国語大辞典』 (2008) 国立国語院 (<http://www.korean.go.kr/>)

『標準国語大辞典』 (2008)(<http://www.korean.go.kr/>) には、北朝鮮で使用されている語彙まで含まれている。だが、本研究は、韓国で使用されている語彙群をその対象とするため、検討対象から除外する。また、畳語形の語彙群も除外する。

2.4 研究方向

まず、「笑い」に関する音声象徴語の感情と会話機能に対する諸要素の分類基準を設ける。分類基準は「笑い」を発話の機能の観点から分析した橋元 (1994) や角辻 (1994)、志水 (1994) などの研究を踏まえたものである。そこで研究目的に合わせ、新たな分類方法を試みる。次に言語資料と辞書の定義を基に語彙の代表型の選定を行う。辞書の定義には基本的な単純な意味解釈しか記されておらず、具体的な感情表現と会話機能の諸要素を考察するためには、言語資料の分析が必要だと判断される。言語資料は、日韓の現代小説 (2000 年度以降に出版されたもの) から収集したものである。

3 「笑い」の分類と用例収集

3.1 辞書における分類と本研究における分類

用例収集を行う前に「笑い」に関する音声象徴語について日韓の両辞書にはどのようなものが、どのように掲載されているかを検討する。2.3 で言及した日韓の辞書から収集された語彙を対象とし、辞書の定義に基づいて分類を行う。

収集された語彙数は、日本語は29語 (笑い声を表すもの11語、笑う様子を表すもの16語、笑い声や笑う様子を表すもの2語)、韓国語は215語 (笑い声を表すもの10語、笑う様子を表すもの167語、笑い声や笑う様子を表すもの38語) である。

辞書の定義に基づいた分類では、いくつかの疑問が残る。笑い声を表すものと笑い声や笑う様子を表すものにおいてその分類基準が明確ではないと思われる。例えば、「くっくっ」「くつくつ」「けたけた」「げたげた」「どっ」は辞書では笑う様子を表すものとして挙げられているが、単に笑う様子だけではなく笑い声も表すものではないか。ここで笑い声を表すというのは、「あはは」のように単に笑い声を直接に描写することだけではなく、音(おと)、つまりあらゆる声を出して笑う様子を描写することも示す。このような問題は韓国語の辞書でも見られる。例えば、笑う様子を表すものとして挙げられている「재그르르 (jaegeuleuleu)」「푸시시 (pusisi)」「후후 (huhu)」「회회03 (huihui)」は笑う様子だけではなく、笑い声も表すものではないかと思われる。

このような問題を踏まえて本研究では、う様子だけを表すもの (以下、「無音の笑い」と称する)と笑う様子だけではなく笑い声も表すもの (以下、「音の笑い」と称する)のように二分類する。また、韓国語で無音の笑いを表すものに対し形態によって四つの系列に分類している。「방글 (banggeul)」と「상글 (sanggeul)」は、意味上「声なく穏やかに笑うさま」ということにおいて類似しているが、「방글 (banggeul)」は口の動きに、「상글 (sanggeul)」は目と口の動きに注目している点で異なっている。そこで、ㅁ(b)音とㅅ(s)音に注目し、Ⅰㅁ(b)口列、Ⅱㅅ(s)口列、Ⅲㅁ·ㅅ(s·b)系列、Ⅳその他のように分けることにする。

3.2 出版小説における用例の収集

本研究では、日韓の一般的な現代小説 (2000 年度以降に出版されたもの) からの用例を収集する。対象となる小説は、日韓各四巻、計八巻である。

各語彙は辞書に標題語として掲載されているもの(以下、基本型と称する)をその代表型として表記してある。() の数字は出現頻度数を表している。() に出現された全ての語彙が挙げられているが、表記する際に便宜上、代表型で表すことにする。下線が引いてあるものは辞書でその基本型が見つからないものである。

表1 日本語の出版小説からの用例と出現回数

無音の笑い(66)	音の笑い(56)
にこにこ(26) (にこにこ(25)にこっ(1))	あはは(11) (あはは(4)あははは(1)あっはっは(2)はっはっは(1))
にっこり(28)	がはは(1)がはははっ(1)がはははは(1))
<u>にっ</u> (1)	うふふ(8)(うふふ(4)ふふ(2)ふふふ(1)ふふん(1))
にやにや(6) (にやにや(5)にやっ(1))	えへへ(15) (えへへ(7)えへへへ(2)へへ(1)へへへ(2)へへへへ(1))
にやり(4)	へへへっ(2)へっへっへ(1))
へらへら(1)	くすくす(13) くっくっ(2)(くくくく)(2) <u>きやっきやっ(2)(きやっきやっ(1)きやっきやきやっきや(1))</u> <u>けけ(2)(けけけけ(1)けけっ(1))</u> げらげら(1) <u>ひやひやひやひや(1)</u> どっ(1)

(計122語)

表2 韓国語の「笑い」を表す音声象徴語の用例

無音の笑い(38)	音の笑い(67)
방긋(banggeus)(1)	까르르(ggaleuleu)(9)
배시시(baesisi)(2)	깔깔(ggalgal)(7)
빙그레(binggeule)(7)	낄낄(ggeolggeol)(2)
빙긋(binggeus)(14)	으하하(euhaha)(1)
싱글(singgeul)(2)	킁(kig)(7)((킁킁(kigkig)(2)킁킁킁(kigkigkig)(5))
싱글빙글(singgeulbeonggeul)(1)	<u>쿠쿠쿠(kugkugkug)(1)</u>
싱긋(singgeus)(1)	키득(kideug)(3) (키득(kideug)(2)(키득키득(kideugkideug)(1))
실실(silsil)(3)	키들키들(kideulkideul)(2) (키들키들(kideulkideul)(1)(키들(kideul)(1))
씩(ssig)(7) (씩익(ssiig)(1)씩(ssig)(6))	킬킬(kilkil)(3) 하하(haha)(8) (하하(hahaha)(3)하하하(hahahaha)(2) 핫하하(hashaha)(1)핫하하하(hashahaha)(1))

	허허(heoheo)(3) 헤(he)(2) (헤헤(hehe)(2)) 후후(huhu)(1) (후후후(huhuhu)(1)) 호호(hoho)(3) (호호호(hohoho)(3)) 호호(heuheu)(4) 히히(hihi)(1) 푸욱(puug)(1) 피식(pisig)(10)
--	---

(計105語)

辞書に掲載されていないもので日本語では笑い声を表すものものものにおいて基本型からの変形されたものの出現頻度、つまり変形生成度が高いのに対し、韓国語では笑い声や笑う様子を表すものにおいて変形生成度が高い。

3.3 機能に基づいた「笑い」の分類

本研究での笑いの分類は主に橋元 (1994) を従い、それを基に新たな分類を試みる。次がそのようである。

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 快樂の笑い | ⑤ 社交的機能の笑い |
| ② おもしろさの笑い | ⑥ 自己防衛機能の笑い |
| ③ 緊張解放の笑い | ⑦ 会話進行調節機能の笑い |
| ④ 攻撃的機能機能の笑い | |

ここで注意すべきことは、笑いは必ずしも一つだけの感情と会話機能を表しているわけではなく、たびたび二つ以上の複合的な要素を重ねて表れる場合があるということである。

4 各機能における「笑い」に関する音声象徴語

4.1 全般的な使用傾向

本研究では「笑い」を、①快樂の笑い、②おもしろさの笑い、③緊張緩和の笑い、④攻撃的機能の笑い、⑤社交的機能の笑い、⑥自己防衛的機能の笑い、⑦会話進行調整的機能の笑いに七つに大別する。但し、前述したように笑いは、必ずしも一つだけの機能を表しているわけではなく、たびたび複数の機能が重なって表れる場合がある。また、他の感情と混合して表れる場合がある。そこで、複数の要素を持つと判断されるものについてはどの要素がより優先されて表現されているのかに注目し、最も引き立っていると判断される要素に注目して分類することにする。すなわち、一つの笑い

について重複の分類はされていない。

複数の機能が表れるものとして日韓各二例が見られる。次のようなものが挙げられる。

- (1) 「二人とも静かだな、おじさんの運転は怖い? それとも、小さい車で窮屈かな」
えへへ、と友香が照れ笑いをしながら、首を横に振った。

下鳥潤子 (2007) 『わすれられないよ 波の音』

(1) は、相手の問いに対する応答、つまり⑦会話進行調整機能の笑いとも、相手の発言に対するおもしろさやおかしさなどからの②おもしろさの笑いとも解釈できる。しかし、⑦の機能がより優先されているものと判断され、⑦に分類することにする。

他の感情と混合して表れるものとして日本語で3例が見られる。次のようなものが挙げられる

- (2) なんだよ、その泣き笑いーって思ったら、…「あはは」と声を出して笑いながら、泣いてしまった。

森沢明夫 (2007) 『海を抱いたビー玉ー蘇ったボンネットバスと少年たちの物語ー』

(2) は、哀しい感情が交じった泣き笑いである。哀しい感情を笑いを利用し隠そうとする意図が含まれているものであると判断され、⑥自己防衛機能の笑いに分類することにする。このようなことを踏まえ、分類したのが次の表である。

まず各機能の詳細な様相を分析をする前に全般的な傾向を概観してみる。

表3 日韓の両小説に出現した全用例数

機能の様相		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
音/無音 /計	日	15/31/ 46	30/4/ 34	0/1/ 1	2/4/ 6	2/14/ 16	5/1/ 6	2/11/ 13	56/66/ 122
	韓	10/19/ 29	34/5/ 39	1/0/ 1	16/3/ 19	1/2/ 3	1/1/ 2	5/7/ 12	68/37/ 105
計		75	73	2	25	19	8	25	124/103/ 227

(*表の数字は、左から順に音の笑いを表すもの、無音の笑いを表すもの、合計を表している。)

以上の表から分かるように出現された全用例数から見ると「笑い」に関する音声象

徴語の使用頻度は、日本語は計122語、韓国語は計105語で、日本語の方が高い傾向を見せている。辞書に標題語として掲載されている語数は、日本語は29語、韓国語は219語で、韓国語の方が圧倒的に多いのに対し、実際の発話場面における使用頻度については逆傾向を見せている。

音の笑いを表すものと無音の笑いを表すものにおいて日本語は音の笑いを表すものより無音の笑いを表すものが多い用い反面、韓国語は無音の笑いを表すものより音の笑いを表すものが多い。

機能の様相から見ると日韓両方とも①快樂の笑いと②おもしろさの笑いが圧倒的に多く出現され、優位を占めている。日本語は、①>②>⑤>⑦>④>⑥>③の順で表れ、韓国語は、②>①>④>⑦>⑤>⑥>③の順で表れる。ここで興味深いことに日本語は社交的機能の笑いが攻撃的機能の笑いより多く出現されるのに対し、韓国語は社交的機能の笑いより攻撃的機能の笑いが多く出現され、逆傾向を見せている。以上、全般的な使用傾向を観察してみたが、次の章では、このような結果を基により詳しく分析していく。

4.2 使用傾向の分析

使用傾向の全般的な傾向を観察してみた結果、日本語は社交的機能の笑いが攻撃的機能の笑いより多い反面、韓国語は社交的機能の笑いより攻撃的機能の笑いが多く、逆傾向を見せているが、そこで本章では社交的機能の笑いと攻撃的機能の笑いについて考察していく。

攻撃的機能の笑いと社交的機能の笑いは、対人関係において正反対の機能を持っている。攻撃的機能の笑いは相手を非難や軽蔑するなど人をあざけることだけではなく、優越感の誇示も含まれているもので、相手との関係において距離感を置きたいという気持ちが込められているものである。その反面、社交的機能の笑いは相手に好意を示し、親愛や強調を表すもので人間関係を円滑にするためのものである。つまり相手との距離を近づけたいという気持ちが込められているものである。

攻撃的機能の笑いと類似するものとして、自己防衛的機能の笑いが挙げられる。自己防衛的機能の笑いは当惑や困惑など主に否定的な感情を相手に知られたくない際に浮かべる笑いである。つまり攻撃的機能の笑いと自己防衛的機能の笑いは、相手との関係において距離感を置きたいという気持ちが込められているという点で類似している。また、社交的機能の笑いと類似するものとして会話進行調整的機能の笑いが挙げられる。会話進行調整的機能の笑いは、橋元 (1994: 47)で「会話において、言語に付随したり、一つのターンの中で発話間に挿入されたりあるいは相手の発話に対して一つのターンの機能を果たすものとして表出されたりして会話の進行上明確な役割を担って発信される笑いなし微笑の機能である」と言及されている。つまり社交的機能の笑いと会話進行調整機能の笑いは、相手との距離を近づけたいという気持ちが働く

ものである。

一方、攻撃的機能の笑いとは自己防衛機能笑いでは、主体が笑いを通じて何らかの目的を果たそうとする強い意図が含まれ、笑いを前面に立たせることによって笑いが主役になる。その反面、社交的機能の笑いとは会話進行調整的機能の笑いは、笑いが主に会話の中に挿入され、話に随伴される形式で表れる場合が多い。例えば、社交的機能の笑いで代表的な例としてあいさつに用いられる笑いや会話進行調整的機能の笑いで相手の話に応答する際に用いられる笑いなどが挙げられる。いずれもこの類の笑いは必ずしも会話に伴わなくても差し支えないものである。つまり社交的機能の笑いとは会話進行調整的機能の笑いにおいて笑いというものは副次的なものになる。

用例からみると、攻撃的機能の笑いとは自己防衛的機能の笑いで音の笑いを表すものが日韓計24語、無音の笑いを表すものが計9語出現され、音の笑いを表すものが多い反面、社交的機能の笑いとは会話進行調整的機能の笑いは音の笑いを表すものが計10語、無音の笑いを表すものが計24語出現され、無音の笑いを表すものが多い。

音の笑いを表すものは、顔の表情と共に声を利用して笑いを表すことによって単に顔の表情だけで笑いを表すことより笑いがより効果的に表現することができ、相手に伝達することができる。攻撃的機能の笑いとは自己防衛的機能の笑いにおいて音の笑いを表すものが多いということは、この類の笑いは、社交的機能の笑いとは会話進行調整的機能の笑いより笑いの使用効果に対する主体の強い思いが込められ、そのようなことをより効果的に相手に伝達しようとする意図が含まれているものではないか。

このようなことを踏まえ、社交的機能の笑いで日本語が韓国語より多いということは、日本人は対人関係を調節しようとする意識が強く、それを主に社交的な微笑みで表すのではないかと推測される。

笹川 (1997) は、笑いを相互作用の視点から捉え、電話会話のデータから笑いが礼儀行為の方略として多様な役割について考察している。笑いを自分の感情をありのまま表す「自己開示」と快さを儀礼的に示し印象操作を意図した「自己呈示」に分類し、「社交的シグナル」という視点からグフマン (1965) のフェイス・ワークの概念を借用している。フェイスとは、プラスの社会的価値をもつ自己イメージ (image of self) のことであるとしている。この概念を基に、①「呈示儀礼」に関わる笑い、②「回避儀礼」に関わる笑い、③「品行」に関わる笑いに分類している。①は、相手のフェイスを評価する行為に添えられるもので、例えば、挨拶に見られる喜びの笑いなどである。②は、相手のフェイスを脅かす行為、つまり発話者側の原因で相手に物理的・精神的な負担をかけると予測される、例えば、悪いニュースを伝えるときや非同意、依頼、断りなどである。③は、自分のフェイスを脅かす可能性のある行為に添えられる笑いのことで、つまり自分の発話が自分のフェイスを損なう可能性のある時、例えば、驚きや誤り、謙遜表現などである。笹川 (1997) は、日本社会のコミュニケーションにおける「考慮」「察し」「非同意や断りを避ける」という方略は、相手のフェイス

の脅かしに対する意識の強さを表し、言語表現に対する笑いも、相互作用においてフェイスの脅かしを強く感じている状況では、意図を非明示的に曖昧に伝えつつ、なお相手や自分のフェイスの保護する笑いが、コミュニケーション方略として重要な価値を付加されていると言及している。なお、この笑いが習慣的なものであることは、言語文化圏により笑いの意味が様々であるとしている。笹川 (1997) で主に捉えられた笑いは、本研究では、⑤社交的機能の笑いに分類されている。この類の笑いが日本語で多いという結果は、笹川 (1997) で言及されたように日本社会において相手を配慮する意識の強さが言語表現のみならず、笑いという手段によって表れているのではないだろうか。

以上、全般的な傾向を外観してみたが、以下の章からは各機能について具体的な諸様相を機能別に対照しながら分析する。具体的な分類基準は、①快樂の笑い、②おもしろさの笑い、③緊張解放の笑い、④攻撃的な笑い、⑤社交的な笑い、⑥自己防衛の笑い、⑦会話進行調節の笑いである。その中で本稿では、日韓の用例で最も高頻度に出現された①と②を取り上げて分析していく。

5 快樂の笑いとおもしろさの笑い

快樂の笑いとおもしろさの笑いは、人間の本能的なものと言えるものであり、笑いをを用いることによって何らかの目的を果たそうともしない、いわゆる主体の気持ちよさの表出に充実されたものである点で共通している。この類の笑いは、日韓両方とも他の笑いより圧倒的に多く出現され、優位を占めている。

5.1 快樂の笑い

快樂の笑いとは、人間の笑いの最も基本的なものであり、単に楽しくて笑う幸福感の笑いである。角辻 (1994) では、このような笑いは、本能的で原始的とも言えるものであるとし、これらを大きく快樂充足の笑いと快樂予期の笑いに分類されており、乳児が授乳直後に見せる笑いをその始まりだとしている。例えば、おいしいものを食べたり熟睡したりして気持ちよく起床することができたりなどのときに浮かべる笑みが挙げられる。そのため、このような笑いは笑いの向ける相手の存在の有無に関わらず出現可能である。

5.1.1 無音の笑いを表すもの

まず日本語の例文を見てみよう。

(3) 涼はずっとにこにこして機嫌がよかった。

下鳥潤子 (2007) 『わすれられないよ 波の音』

日本語は快樂の笑いで無音の笑いを表すものが音を表すものより高頻度に出現され、その中でも「にこにこ」「にっこり」が圧倒的に多くみられる。(3)は、満たされたときの満足や幸福感が伺える。では、韓国語の例文を見てみよう。例文(4)は快樂が満たされたときの満足感や幸福感が伺える。

(4) 맑은 햇살 아래에서 **빙긔** 웃고 있는 그녀의 얼굴이 만개한 수선화처럼 아름다웠다.

(晴れやかな日ざしの下で**binggeus**笑っている彼女の顔が満開した水仙花のように美しかった)

김민기 (2001) 『눈물꽃1』

以上の点を出現頻度の順でまとめたものが次の表である。各語彙は出現頻度の順で並べたもので、()の数字は出現頻度数を表している。

表4 快樂の無音の笑い

	日本語	韓国語
	①快樂の笑い	
無音の笑い (50)	にこにこ (19) にっこり (7) にやり (3) にやにや (1) へらへら (1)	빙긔(binggeus)(7) 빙그레(binggeule)(5) 싱글(singgeul)(2) 씩(ssig)(2) 배시시(baesisi)(1) 싱글빙글(singgeulbeonggeul)(1) 싱긔(singgeus)(1)
計	31	19

韓国語は日本語と同様に快樂の笑いで無音の笑いを表すものが音を表すものより多く見られる。形態の面から見ると、日本語は「にこにこ」「にっこり」といった特定の語彙に多く、韓国語はI ㅁ(b)□列とII ㅅ(s)□列、その中でも特に「빙긔 (binggeus)」「빙그레 (binggeule)」といったI ㅁ(b)□列に多い。

5.2.2 音の笑いを表すもの

音の笑いを表すもので日本語は基本型から変形された様々な形態のものが出現され、その傾向は韓国語より著しい。例えば、基本型の「あはは」に母音が交替された「がはは」、促音が挿入された「はっはっは」などが挙げられる。また、「きゃっきゃきゃっきゃ」のように辞書に掲載されていないものも見られる。(5)は快樂が充足され

た満足感や幸福感が伺える。

(5) ...女の子はうれしくて鼻の穴が広がってはいるが、くすくす笑いながら...

群ようこ (2001)『オトナも子供も大嫌い』

次は韓国語の例文を見てみよう。(5) は満足感や幸福感が伺える。(5) は会話の中に挿入され、連帯感や協調性などを表したり発話場面の雰囲気や和らげたりする社交的機能も果たしていると思われる。

(5) 그 옆에 모여 있는 여자아이들은 모두 인라인 스케이트를 신고 무슨 작전을 세우는지 쑥덕거리다 동시에 까르르 웃음을 터뜨렸다.

(その隣に集まっている女の子たちはみんなインラインスケートを履いて何らかの作戦を立てているのかこそこそと話して同時に ggaleuleu と笑いが吹き出した)

전수찬 (2004)『어느 덧 일주일』

以上の点をまとめたのが次の表である。

表5 快樂の音の笑い

	日本語	韓国語
	①快樂の笑い	
音の笑い (25)	えへへ(5) くすくす(5) あはは(2) うふふ(1) くっくっ(1) きゃっきゃっ(1)	까르르(ggaleuleu)(2) 갈갈(ggalggal)(2) 호호(hoho)(2) 겉겉(ggeolggeol)(1) 키들키들(kideulkideul)(1) 헤(he)(1) 후후(huhu)(1)
計	15	10

「くすくす」は辞書²で「こらえきれずに声をひそめて笑うさま。また、その声」と定義されている。韓国語で「くすくす」と意味上、類似していると判断されるものは小説の用例では「키들키들 (kideulkideul)」が挙げられる。「키들키들 (kideulkideul)」は「웃음을 견잡지 못하여 입 속으로 자꾸 웃는 소리. 또는 그 모양 (笑いを抑えきれず口の中でしきりに笑う声。またそのさま)」のように定義されて

² 『広辞苑 第六版』 (2008) 岩波書店 (CD-ROM版)

いる。その他にも「꺽꺽 (ggaelggael)」「꺽꺽 (ggilggil)」「꺽꺽 (kilkil)」「꺽꺽 (kaedeudeug)」「꺽꺽 (kaedeug)」「꺽꺽 (kideudeug)」「꺽꺽꺽꺽 (kaedeulkaedeul)」「꺽꺽 (kaelkael)」「꺽꺽 (kig)」が挙げられる。いずれも笑いをこらえきれない忍び声または様子を表すもので本研究では音の笑いを表すものとして扱われている。

以上、快樂の笑いを無音の笑いを表すものと音の笑いを表すものに分けて分析してみた。快樂の笑いは、単純に楽しいから笑う人間の本能的なものと言えるものであり、満足感や幸福感の表れである。この類の笑いは、笑いの差し向ける相手の存在を必ずしも必要としない。また、相手の存在が想定されている場合でも人間ではない場合もある。

快樂の笑いを表す音声象徴語は、日韓両方とも音の笑いを表すものより無音の笑いを表すものにおいて多く見られる。このような結果は、快樂の笑いは授乳後の幼児に見られる満足感から来るほほえみにその始まりがあるという角辻 (1994) の説明に関連づけられると考えられる。

語彙の形態の面において無音の笑いを表すものは、日韓両方とも特定の語彙に圧倒的に多く見られ、その傾向は韓国語より日本語が著しい。例えば、日本語は「にこにこ」「にっこり」、韓国語は I ㅁ(b)□列と II ㅅ(s)□列、特に「빙긔 (binggeus)」「빙그레 (binggeule)」といった I ㅁ(b)□列に多く見られる。

6 おもしろさの笑い

おもしろさの笑いとは、他人の失態を見たり予想していた期待がはずれたりしたなどの際に出現する、おかしさや面白さの笑いである。この際、笑いの誘因となった相手または物事に対し非難したり嘲笑したりするような否定的な意図や感情は含まれていない。この類の笑いは快樂の笑いと同様に必ずしも笑いの差し向ける相手が存在しなくても出現可能で、相手の存在が想定されていてもその相手は人間ではない場合もある。また、笑いの誘因となる物事が実現されていない状態、つまり想像や予期だけでも出現可能である。

6.1 無音の笑いを表すもの

快樂の笑いで日韓両方とも無音の笑いを表すものが多い反面、おもしろさの笑いは音の笑いを表すものが多い。まず日本語の例文を見てみよう。

- (6) a. 岩城にメンコを教えている自分を想像したら、なんだかおかしくなってきた、僕はにやにやしてしまった。
- b. 「なんじゃ、清、おまえにやにやしよって。気色悪い奴やのう」
- c. そういう岩城も気持ち悪いくらいにやにやしていた。

森沢明夫 (2007) 『海を抱いたビー玉ー蘇ったボンネットバスと少年たちの物語ー』

これに対し韓国語の例文を見てみよう。

(7) 의사가 정우에게 시선을 돌리더니 **빙긔** 미소를 머금었다.

(医者がジョンウに視線を回して **binggeus** 微笑を含んだ)

김민기 (2001) 『눈물꽃1』

(6) の「にやにや」はいずれも面白いことやおかしいことなどを考えたり想像したりした際のものである。但し、(6a) の「にやにや」は面白さやおかしさなどの要素が伺えるが、(6b) と (6c) は発話場面によって相手を不愉快にする否定的な要素が含まれている。金 (2005) で否定的な感情を表すものとして「にやにや」が挙げられている。「にやにや」は笑う主体が内心の余裕・快感・軽蔑などから連続して笑う様子を表すもので、見る人に対して不快感を与えるものであると言及されている。

(7) は相手のことを面白がったりおかしがったりした際のものである。但し、これらはいずれも (6bc) のように相手に不快感を与えるものであるとは考えられない。以上のことをまとめたのが次のようである。

表6 おもしろさの無音の笑い

	②おもしろさの笑い	
	日本語	韓国語
無音の笑い (9)	にやにや(3) にっ(1)	빙긔(binggeus)(3) 배시시(baesisi)(1) 씩(ssig)(1)
計	4	5

6.2 音の笑いを表すもの

まず日本語の例文を見てみよう。(8) は相手のことを面白がったりおかしがったりする様子が伺える。

(8) うろたえる兄がおかしくて、波子がくすくす笑う。

下鳥潤子 (2007) 『わすれられないよ 波の音』

次は韓国語の例文を見てみよう。(9) は面白さやおかしさなどからの笑いである。これは日本語と同様に笑いの誘因となる物事や笑いを差し向ける相手に対する避難や軽蔑などの否定的な要素は含まれていない。

- (9) 메모지를 옆에 두거나 머리를 굴리지 않고 그저 ‘킁킁 재미있네!’
 (メモの紙を側に置いておいたり頭を回したりしないでただ「kgkgkg面白いわ!」)

김하인 (2000) 『국화꽃 향기1』

以上の点をまとめたのが次の表である。

表7 おもしろさの音の笑い

	②おもしろさの笑い	
	日本語	韓国語
音の笑い (64)	くすくす(8) えへへ(6) あはは(5) うふふ(5) けけ(2) きゃっきゃっ(1) くっくっ(1) げらげら(1) どっ(1)	하하(haha)(8) 킁(kig)(6) 피식(pisig)(4) 키득(kideug)(3) 킬킬(kilkil)(3) 갈갈(ggalggal)(2) 으하하(euhaha)(1) 까르르(ggaleuleu)(1) 결결(ggeolggeol)(1) 키들키들 (kideulkideul)(1) 쿁쿁쿁(kugkugkug)(1) 호호(hoho)(1) 히히(hihi)(1) 흐흐(heuheu)(1)
計	30	34

日本語は音の笑いを表すもので基本型から変形された変形型の出現が多い。例えば、基本型「えへへ」にh音が挿入された「へへへ」、更に促音が挿入された「へへへっ」、基本型「うふふ」に前の母音が脱落された「ふふふ」、更に語末に撥音が挿入された「ふふん」などが挙げられる。また、辞書に掲載されていないもの、例えば、「けけ」「きゃっきゃっ」のようなものが見られる。

以上、おもしろさの笑いを無音の笑いを表すものと音の笑いを表すものに分けて分析した。おもしろさの笑いは、物事に対する面白さやおかしさなどからのものである。この類の笑いは、必ずしも笑いの差し向ける相手の存在を必要としない場合もあり、かつ、その相手は直接人間ではない場合もある。

おもしろさの笑いを表す音声象徴語は、日韓両方とも音の笑いを表すものが多く、日本語は変形型の出現が多い。興味深いことは、音の笑いを表すもので音の強さや長さ、大きさなどの程度について日本語は「くすくす」という忍び声、少々抑え気味で笑う声のものが上位を占めているのに対し、韓国語は「하하 (haha)」という大声、遠慮なく豪快に笑う声のものが上位を占めている点である。

本稿で取り上げた快樂の笑いとおもしろさの笑いは、日韓両方とも用例数において最も高頻度に出現されたものである。快樂の笑いとおもしろさの笑いは、人間の本能的なものと言えるものであり、何らかの目的を果たそうともしない、いわゆる主体の気持ちよさの表現に充実されたものである。日韓両方とも快樂の笑いでは無音の笑いを表すものが多く、おもしろさの笑いでは音の笑いを表すが多い。

無音の笑いは表情だけで笑いを表すものであり、音の笑いは表情と共に声も利用して笑いを表すものである。そこで、無音の笑いはやや消極的なもの、音の笑いはやや積極的なものであると言える。このようなことを踏まえ、快樂の笑いは角辻(1994)で授乳後の幼児の微笑みにその始まりがあると言及されているようにいわゆる自己満足の表出が主になっている。その反面、おもしろさの笑いは他者の失態などをおもしろがったりおかしがったりして笑うものである点で笑いの差し向ける相手が必ず存在する。この際、相手が眼前に存在しない場合、例えば、テレビや漫画などを見て笑う場合などでも笑いの差し向ける相手の存在は否定できない。そのため、おもしろさの笑いは相手に感情を表したり会話機能を果たしたりする機会が多い。このようなことから、快樂の笑いは、表情だけで笑いを表すやや消極的なものが多く、おもしろさの笑いは表情と共に声も利用して笑いを表すやや積極的なものが多いのではないかと思われる。

7 まとめと今後の課題

本研究は、「笑い」で表す感情や会話機能を音声象徴語に焦点を置き、日韓の両言語を対照し、各機能についての具体的な諸様相を機能別に対照しながら分析した。本研究では「笑い」を、①快樂の笑い、②おもしろさの笑い、③緊張解放の笑い、④攻撃的機能な笑い、⑤社交的機能な笑い、⑥自己防衛機能の笑い、⑦会話進行調節機能の笑いに分類するが、本稿では、用例数で日韓両方とも最も優位を占める①と②を取り上げて分析した。

従来の先行研究では主に音声象徴語の形態や意味解釈に重点が置かれたものが多い。本研究は、それらを踏まえて音声象徴語は感情表現をする際に重要な役割を担う語彙群であることを明らかにした。なお、笑いを表す音声象徴語を会話機能の面から分析して発話場面での使用効果を調べた。更に、日韓の対照を通して感情表現の相違点を探った。

今後の課題として、研究の範囲を広げ、「泣き・驚き・怒り」などに関する語彙群の

検討やアンケートなどによる検証などが考えられる。また、日本人の韓国語学習者及び韓国人の日本語学習者への教育の応用方法の検討も必要である。

参考文献

- 中村明 (1985)『感情表現辞典』東京堂出版。
天沼寧 (1974)『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版。
岩波書店 (2008)『広辞苑 第六版』(CD-ROM版)。
国立国語院 (2008)『標準国語大辞典』(<http://www.korean.go.kr/>)。
- 石黒圭 (2008)「オノマトペとは」『国文学』53: 24-32。
大坪併治 (1989)『擬声語の研究』風間書房。
大谷洋子 (1989)「擬態語の特徴」『日本語教育』68: 45-55。
金田一春彦 (2004)『金田一春彦作集 第三巻』講談社。
笥寿雄・田守育啓 (1993)『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』勁草書房。
志水彰・角辻豊・中村真 (1994)『人はなぜ笑うのかー笑いの精神生理学』講談社。
玉村文夫 (1989)「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』68: 1-11。
田守育啓・ローレンス・スコウラップ (1993)『オノマトペー形態と意味ー』くろしお出版。
中村真 (1994)「笑いの心理学」『月刊言語』23(12): 36-41。
橋元良明 (1994)「笑いのコミュニケーション」『月刊言語』23 (12): 42-48。
金光泰 (2005)「일본『昔話』에 나타난 <웃음>의 오노매토피어」『日本言語文化』6: 37-55。
김인화 (1993)『현대 한국어의 음성상징어 연구』이화여자대학교 대학원 1994학년도 박사학위 청구논문。
박동근 (2000)「‘웃음표현 흉내말’의 의미 기술」『한글』247: 159-189。
배해수 (1981)「현대 국어의 웃음 동사에 대하여」『한글』172: 105-128。
윤석민 (2005)「웃음의 의미론적 분석」『국어국문학』40: 15-38。
李癸玉 (1986)「喜·怒에 관한 韓日兩國의 擬聲語·擬態語의 意味論的 小考」『培花論叢』5: 95-112。
(朴 智娟 筑波大学大学院生 hoi80802000@yahoo.co.jp)

Laughter on the contrast voice Symbolic Word Study of the Japanese and Korean

Ji-yeon,PAPK

The study appears in the laughter and conversation ability to focus on emotion in Japanese and Korean, are contrasted. Symbolic Word expressive voice and play an important role in the military vocabulary, is to possess. Symbolic Word The number of Japanese and Korean language voice of the world is richer than any language. Involved in this study expressed negative feelings of the Korean vocabulary in Symbolic Word of the parent to review that accounts for about laughter, it's in Japanese and Koreans have a laugh about the emotions and painting features are investigated.